



最新版

日语专业硕士研究生入学考试

综合日语

总主编 何莘莘

本册主编 李光贞

辅导全书

山东人民出版社



最新版

日语专业硕士研究生入学考试

综合日语 辅导全书

权威性：

- 众多名校考研辅导名师联合编写

实用性：

- 贴近广大考生备战考研实际需求

新颖性：

- 考点精讲
- 真题分析
- 习题操练

责任编辑 张智慧

ISBN 978-7-209-05436-2



9 787209 054362 >

定价：49.00 元

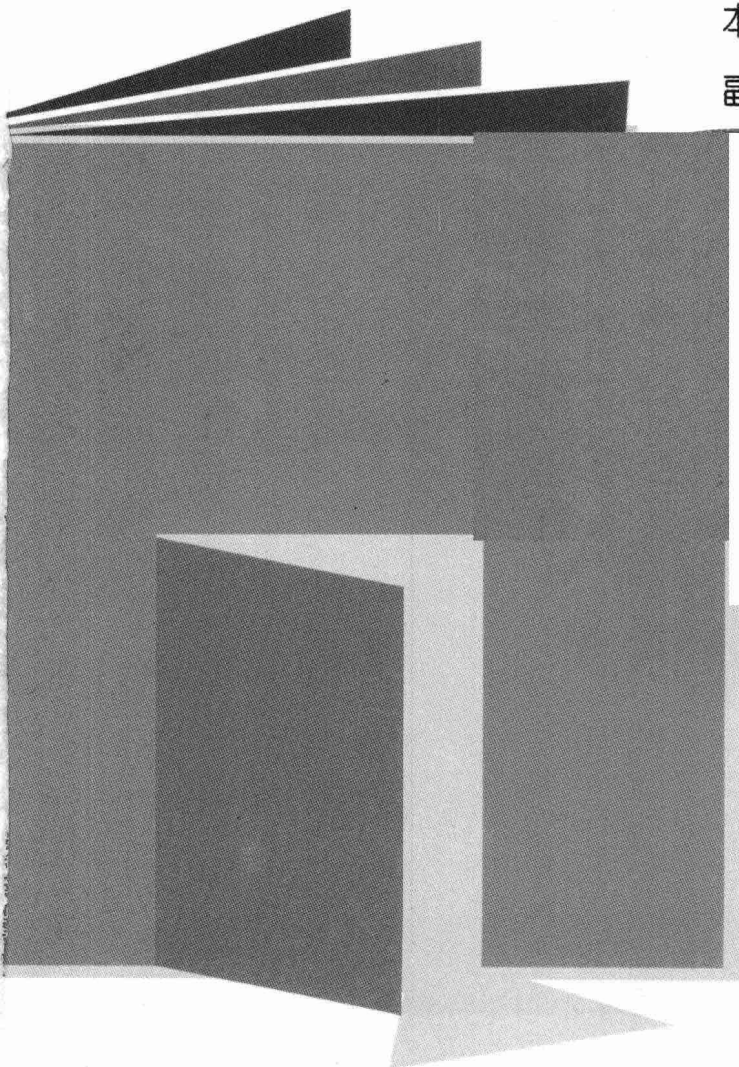
日语专业硕士研究生入学考试

综合日语 辅导全书

总主编 何莘莘

本册主编 李光贞

副主编 王东辉 崔颖



山东人民出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语专业硕士研究生入学考试综合日语辅导全书/
李光贞主编. — 济南: 山东人民出版社, 2010. 7
ISBN 978-7-209-05436-2

I. ①日... II. ①李... III. ①日语-研究生-入学
考试-自学参考资料 IV. ①H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 144167 号

责任编辑: 张智慧

日语专业硕士研究生入学考试
综合日语辅导全书

总 主 编 何莘莘

本册主编 李光贞

山东出版集团

山东人民出版社出版发行

社 址: 济南市经九路胜利大街 39 号 邮 编: 250001

网 址: <http://www.sd-book.com.cn>

发行部: (0531)82098027 82098028

新华书店经销

日照报业印刷有限公司印装

规 格 16 开 (184mm×260mm)

印 张 23.5

字 数 520 千字

版 次 2010 年 7 月第 1 版

印 次 2010 年 7 月第 1 次

ISBN 978-7-209-05436-2

定 价 49.00 元

如有质量问题, 请与印刷厂调换。(0633)8221365

日语专业硕士研究生入学考试综合日语辅导全书

编写说明



本书主要面向参加全国硕士研究生入学统一考试的日语专业学生,从当前考研形势出发,帮助考生全面掌握知识、高效率地复习专业课以及最大限度地消除知识盲点,帮助考生在复习备考过程中取得事半功倍的效果。同时,本书也可以供大学院校日语教师作为考研教学辅导教材使用。拥有一本内容全面、知识系统、立足当前考研实际需求的,既能帮助梳理复习知识要点,又能对应试题予以实战指导的辅导教材,对日语专业的老师与同学至关重要。这就是我们编写本书的宗旨所在。

本书共分七章:日本概况、日本语言学、日本社会与文化、日本文学、日本历史、日本政治与经济、翻译与写作。每章按内容分三至六节不等,每节起首设有综述、要点概括,每节之后有与该节有关的中国各主要大学日语专业历年考研真题解析和练习题。本书内容涵盖各主要大学日语专业的综合日语以及语言、文学、文化、社会、经济、翻译等专业课考试要点。在每节的真题解析部分,收集了北京日本学研究中心、北京外国语大学、北京师范大学、上海外国语大学、南京大学、武汉大学、中国海洋大学、山东师范大学等多所大学的考研试题,并附有参考答案和解题要点。在对历年试题分析的过程中,既可以加深对知识点的理解和掌握,同时又可以找出出题规律,抓住考试的命题思路,为考生顺利通过考试提供最大的帮助。

本书的编者大多是来自教学一线、有着丰富教学经验和研究成果的日语专业教师。具体执笔人如下:第一章,宋会芳;第二章,曲晓燕;第三章,管秀兰;第四章,崔颖;第五章,王东辉;第六章,李芯;第七章,林啸轩。

由于时间仓促,加上编者水平有限,书中难免存有错漏和不当之处,敬请各位同行、读者给予批评指正。

编者

CONTENTS

日语专业硕士研究生入学考试综合日语辅导全书

目 录



第一章 日本概况

第一節 国土

- 一、概観 /001
- 二、ポイントの総括 /001
 - (一) 日本の位置 /001
 - (二) 日本の構成 /001
 - (三) 日本の区画 /002
 - (四) 地形 /003
 - (五) 気候 /006

三、試験問題の詳解 /007

四、練習問題 /013

第二節 人口と民族

- 一、概観 /014
- 二、ポイントの総括 /014
 - (一) 人口 /014
 - (二) 民族 /015

三、試験問題の詳解 /016

四、練習問題 /017

第三節 交通と観光

- 一、概観 /017
- 二、ポイントの総括 /018
 - (一) 陸上交通 /018
 - (二) 航空 /018
 - (三) 海運 /018
 - (四) 日本の世界遺産 /018
 - (五) 自然景観 /020
 - (六) 名所旧跡 /020

三、試験問題の詳解 /021

四、練習問題 /022

第四節 資源

- 一、概観 /023
- 二、ポイントの総括 /023

- (一) 植物 /023
 - (二) 動物 /023
 - (三) 地下資源 /024
 - (四) エネルギー資源 /024
- 三、試験問題の詳解 /024
- 四、練習問題 /025

第二章 日本語学

第一節 言語学と日本語学

- 一、概観 /026
 - 二、ポイントの総括 /026
 - (一) 言語学 /026
 - (二) 日本語と日本語学・国語学 /027
 - (三) 国語教育と日本語教育 /028
 - (四) 現代日本語の言語単位 /028
- 三、試験問題の詳解 /029
- 四、練習問題 /029

第二節 音声と音韻

- 一、概観 /30
 - 二、ポイントの総括 /030
 - (一) 音声と音韻 /030
 - (二) 音素 /032
 - (三) 音節 /035
 - (四) 音調 /036
- 三、試験問題の詳解 /038
- 四、練習問題 /040

第三節 語彙

- 一、概観 /040
- 二、ポイントの総括 /040
 - (一) 語彙とは何か /040
 - (二) 語彙の量的側面 /041
 - (三) 語彙の分類 /042

三、試験問題の詳解 /047

四、練習問題 /049

第四節 文法

一、概観 /049

二、ポイントの総括 /050

(一) 文法と文法学 /050

(二) 主要な文法学説 /050

(三) 品詞の分類 /052

(四) 構文論 /055

(五) 主題と主語 /061

三、試験問題の詳解 /064

四、練習問題 /065

第五節 その他の問題

一、概観 /066

二、ポイントの総括 /066

(一) 敬語 /066

(二) 文字と表記 /074

(三) 共通語と方言 /078

(四) 文章と文体 /080

(五) 言語生活 /083

三、試験問題の詳解 /086

四、練習問題 /089

第三章 日本社会と文化

第一部分 日本の社会

第一節 精神構造と行動様式

一、概観 /091

二、ポイントの総括 /091

(一) 日本人の一生 /091

(二) 日本人の国民性 /091

(三) 勤労意識と娯楽観 /093

(四) 集団主義 /093

(五) 年功序列 /094

三、試験問題の詳解 /095

四、練習問題 /095

第二節 風俗習慣

一、概観 /096

二、ポイントの総括 /096

(一) 日本の祭り /096

(二) 主な年中行事 /097

(三) 国民の祝日 /099

(四) 義理・人情 /101

(五) 日本料理 /102

(六) 着物 /103

(七) 婚儀 /104

(八) 葬儀 /105

三、試験問題の詳解 /106

四、練習問題 /107

第三節 社会保障制度

一、概観 /107

二、ポイントの総括 /107

(一) 社会保障制度の内容 /107

(二) 福祉国家確立への歩み道 /108

(三) 高齢化問題 /109

三、試験問題の詳解 /109

四、練習問題 /110

第四節 日本の教育

一、概観 /110

二、ポイントの総括 /110

(一) 日本の教育制度 /110

(二) 日本の教育問題 /111

(三) 他の先進国との比較 /112

三、試験問題の詳解 /112

四、練習問題 /112

第二部分 日本の文化

第一節 日本文化の歴史

一、概観 /113

二、ポイントの総括 /113

(一) 原始・古代 /114

(二) 中世 /122

(三) 近世 /125

(四) 近代 /128

(五) 現代 /134

三、試験問題の詳解 /135

四、練習問題 /136

第二節 日本文化の特性

一、概観 /136

二、ポイントの総括 /137

(一) 日本文化の起源 /137

(二) 外来文化の影響 /137

(三) 日本文化の特性 /137

(四) 生活の中の日本文化 /138

三、試験問題の詳解 /140

四、練習問題 /141

第三節 日本の芸術

一、概観 /141

二、ポイントの総括 /141

(一) 華道(生け花) /141

(二) 茶道 /142

(三) 書道 /142

(四) 日本画 /142

(五) 庭園・住宅 /143

三、試験問題の詳解 /144

四、練習問題 /144

第四節 日本の芸能

一、概観 /144

二、ポイントの総括 /145

(一) 能 /145

(二) 狂言 /145

(三) 歌舞伎 /146

(四) 文楽 /146

三、試験問題の詳解 /147

四、練習問題 /147

第五節 日本のスポーツ

一、概観 /147

二、ポイントの総括 /148

(一) 相撲 /148

(二) 柔道 /149

(三) 野球 /149

三、試験問題の詳解 /150

四、練習問題 /150

第六節 日本の宗教

一、概観 /151

二、ポイントの総括 /151

(一) 神道教・仏教・儒教 /151

(二) キリスト教 /152

(三) その他の宗教 /153

三、試験問題の詳解 /153

四、練習問題 /153

第四章 日本文学

第一節 上代文学

一、概観 /154

二、ポイントの総括 /154

(一) 文学の流れ /154

(二) 特徴と理念 /156

(三) 代表的な作家と作品 /156

三、試験問題の詳解 /159

四、練習問題 /160

第二節 中古文学

一、概観 /160

二、ポイントの総括 /161

(一) 文学の流れ /161

(二) 特徴と理念 /162

(三) 代表的な作家と作品 /162

三、試験問題の詳解 /169

四、練習問題 /171

第三節 中世文学

一、概観 /171

二、ポイントの総括 /172

(一) 文学の流れ /172

(二) 特徴と理念 /173

(三) 代表的な作家と作品 /173

三、試験問題の詳解 /179

四、練習問題 /180

第四節 近世文学

一、概観 /180

二、ポイントの総括 /181

(一) 文学の流れ /181

(二) 特徴と理念 /182

(三) 代表的な作家と作品 /182

三、試験問題の詳解 /190

四、練習問題 /191

第五節 近代文学

一、概観 /191

二、ポイントの総括 /191

(一) 文学の流れ /191

(二) 特徴と理念 /194

(三) 代表的な作家と作品 /194

三、試験問題の詳解 /206

四、練習問題 /210

第六節 現代文学

- 一、概観 /211
- 二、ポイントの総括 /211
 - (一) 文学の流れ /211
 - (二) 特徴と理念 /212
 - (三) 代表的な作家と作品 /212
- 三、試験問題の詳解 /215
- 四、練習問題 /216

第五章 日本の歴史**第一節 原始・古代**

- 一、概観 /217
- 二、ポイントの総括 /217
 - (一) 原始社会の文化 /217
 - (二) 古代国家の形成と中国文明の影響 /218
 - (三) 奈良時代 /220
 - (四) 平安時代 /222
- 三、試験問題の詳解 /224
- 四、練習問題 /224

第二節 中世

- 一、概観 /225
- 二、ポイントの総括 /225
 - (一) 鎌倉時代 /225
 - (二) 室町時代 /227
- 三、試験問題の詳解 /228
- 四、練習問題 /229

第三節 近世

- 一、概観 /229
- 二、ポイントの総括 /230
 - (一) 安土・桃山時代 /230
 - (二) 幕藩体制の確立 /231
 - (三) 幕藩体制国家の展開 /232
 - (四) 幕藩体制の動揺 /233
- 三、試験問題の詳解 /236
- 四、練習問題 /236

第四節 近代国家の成立

- 一、概観 /237
- 二、ポイントの総括 /237
 - (一) 近代の開国と明治維新 /237
 - (二) 大日本帝国憲法の制定と議会政治 /239
 - (三) 中日甲午戦争と日露戦争 /240

- 三、試験問題の詳解 /241

- 四、練習問題 /242

第五節 第一次世界大戦と第二次世界大戦

- 一、概観 /242
- 二、ポイントの総括 /242
 - (一) 第一次世界大戦と日本 /242
 - (二) 第二次世界大戦と日本の中国侵略 /244
- 三、試験問題の詳解 /247
- 四、練習問題 /248

第六節 戦後の日本

- 一、概観 /249
- 二、ポイントの総括 /249
 - (一) 日本の憲法とサンフランシスコ体制 /249
 - (二) 戦後日本の経済復興と経済成長 /250
- 三、試験問題の詳解 /252
- 四、練習問題 /253

第六章 日本の政治と経済**第一部分 日本の政治****古代篇（古代から明治に至るまで）**

- 一、概観 /254
- 二、ポイントの総括 /254
 - (一) 渡来人の来航 /254
 - (二) 聖徳太子の摂政 /254
 - (三) 大化の改新 /256
 - (四) 摂関政治 /256
 - (五) 壬申の乱 /257
 - (六) 本能寺の変 /258
 - (七) 幕藩体制 /258
 - (八) 日米修好通商条約 /259

- 三、試験問題の詳解 /259

- 四、練習問題 /259

近代篇（明治から現在に至るまで）**第一節 戦前の日本政治**

- 一、概観 /259
- 二、ポイントの総括 /260
 - (一) 明治国家の成立 /260
 - (二) 立憲政治 /261
 - (三) 日露戦争 /262

- (四) 桂園時代 /263
- (五) 政党内閣の発展と凋落 /265
- (六) 総力戦体制 /267

三、試験問題の詳解 /268

四、練習問題 /269

第二節 戦後の日本政治

一、概観 /269

二、ポイントの総括 /269

- (一) GHQ 占領下の日本 /269
- (二) 朝鮮戦争とサンフランシスコ
平和条約 /270
- (三) 日ソ共同宣言 /270
- (四) 安保闘争 /270
- (五) 55 年体制の成立と崩壊 /271

三、試験問題の詳解 /272

四、練習問題 /273

第三節 日本の仕組みと行政組織

一、概観 /273

二、ポイントの総括 /273

- (一) 国会 /273
- (二) 内閣 /274
- (三) 裁判所 /274
- (四) 三権分立 /275
- (五) 議会内閣制 /275

三、試験問題の詳解 /276

四、練習問題 /276

第四節 日本憲法

一、概観 /276

二、ポイントの総括 /277

- (一) 憲法の基本原理 /277
- (二) 日本国憲法の特徴 /278

三、試験問題の詳解 /279

四、練習問題 /280

第二部分 日本の経済

第一節 日本経済の発展

一、概観 /280

二、ポイントの総括 /280

- (一) 江戸時代の経済 /280
- (二) 幕末の経済 /281
- (三) 明治時代の経済 /282
- (四) 大正時代～第二次大戦前の経済 /283

- (五) 昭和時代前期～第二次大戦終了
までの経済 /283

- (六) 第二次大戦後の経済 /284

三、試験問題の詳解 /287

四、練習問題 /288

第二節 日本の企業

一、概観 /288

二、ポイントの総括 /288

- (一) 日本の企業組織 /288
- (二) 日本的経営 /288
- (三) 日本的雇用システム /289

三、試験問題の詳解 /290

四、練習問題 /291

第七章 翻訳と作文

第一部分 翻訳編

第一節 言葉の翻訳

一、概観 /292

二、ポイントの総括 /292

- (一) 外来語の翻訳 /292
- (二) 漢字言葉の翻訳 /294
- (三) 「数」の翻訳 /295
- (四) 擬声語と擬態語の翻訳 /296
- (五) 形式名詞の翻訳 /297
- (六) 中国語の範疇名詞と形式動詞の翻訳 /298
- (七) 品詞の転換 /299

三、試験問題の詳解 /300

四、練習問題 /301

第二節 「態」の翻訳

一、概観 /305

二、ポイントの総括 /305

- (一) 能動態の翻訳 /305
- (二) 受動態の翻訳 /307
- (三) 使役態の翻訳 /308

三、試験問題の詳解 /309

四、練習問題 /310

第三節 翻訳技巧

一、概観 /311

二、ポイントの総括 /311

- (一) 順訳 /311
- (二) 意訳 /313

(三) 倒訳 /315

(四) 反訳 /316

(五) 分訳 /317

(六) 合訳 /318

(七) 増訳 /319

(八) 省訳 /320

三、試験問題の詳解 /321

四、練習問題 /322

第四節 文体の翻訳

一、概観 /326

二、ポイントの総括 /326

(一) 手紙文の翻訳 /326

(二) 科学技術文章の翻訳 /327

(三) 経済・貿易文章の翻訳 /328

(四) 新聞記事の翻訳 /328

(五) 文学作品の翻訳 /329

三、試験問題の詳解 /330

四、練習問題 /333

第二部分 作文編

第一節 準備篇

一、概観 /337

二、ポイントの総括 /337

(一) 原稿用紙の使い方 /337

(二) 符号の使い方 /338

(三) 漢字と仮名の表記 /340

(四) 書き言葉と常体 /341

(五) 分かりやすい文を作るコツ /341

第二節 基礎篇

一、概観 /343

二、ポイントの総括 /343

(一) 文章を書く心構え /343

(二) 主題と資料 /344

(三) 文章の書き方と展開 /345

(四) 修辭 /346

第三節 実践篇

一、概観 /348

二、ポイントの総括 /348

(一) 自己紹介文の書き方 /348

(二) 感想文の書き方 /349

(三) 一般的な手紙の書き方 /351

(四) ビジネス用手紙・文書の書き方 /354

(五) 小論文の書き方 /358

三、試験問題の詳解 /360

四、練習問題 /362

参考書目 /363

参考网站 /365

第一章 日本概況

第一節 国土

一、概観

日本は中国と一衣帯水の隣国である。日本列島が島国になったのは、今から約1万年前、氷河が後退して海面が上昇し、大陸から切り離された時である。

二、ポイントの総括

(一) 日本の位置

日本はアジア大陸の東側に位置し、南北に長い弓形の島国である。日本の東と南西には太平洋があり、アジア大陸と日本の間には、オホーツク海と日本海と東中国海がある。

日本は日本海と東中国海を隔てて、中国、韓国、北朝鮮と向い合い、海を隔てて北はサハリン・シベリア、西は朝鮮半島・中国と隣接している。東は広い太平洋を隔てて、アメリカ大陸と相対している。北にはオホーツク海を隔てて、ロシアのシベリアがあり、南には太平洋を隔てて、フィリピンやインドネシアなどの国々がある。特に、朝鮮半島とは対馬海峡で、また樺太（サハリン）とは宗谷海峡で接しており、大陸や近隣の島々と極めて近い位置にある。こうした地理的条件は、大陸からの人間や文化の移動を容易にし、日本という国家の形成に大きな役割を果たした。

日本と中国は「一衣帯水」の隣国であり、上海から九州の長崎まで約460海里、台湾省から日本の南西諸島の南端までは、約60海里ほどしか離れていない。

日本はこんな位置にあるので、大陸の政治的変動に巻き込まれることがなく、大陸の文化を取り入れられる有利さを持っているため、日本は建国しているから、固有の文化を残しながら、外来文化を摂取し、独自の融合文化を築いていくことができた。

(二) 日本の構成

日本は北海道、本州、四国、九州の四つの大きな島を含む6852の島々からなっている。南北約3000キロメートルにわたって弧状を呈している。これらは日本列島と総称されている。

日本の国土は、おおむね北は北緯45度31分から、南は北緯20度付近まで、東は東経149度付近から、西は東経123度までの範囲に位置し、面積は約37万7819km²（平方キロメートル）である。面積は中国やアメリカ合衆国の約25分の1である。

北海道は本州の北にあり、九州は本州の南西にあつて、四国は本州の南にある。その中で、本州の面積が一番大きく、全国面積の61%を占めている。北海道は22%、九州（沖縄県を含む）は12%、四国は5%をそれぞれ占めている。

北海道の北には北方四島と呼ばれる歯舞島、色丹島、国後島、択捉島の四島があり、第2次世界大戦後、旧ソビエト（現ロシア）に占領されており、日本とロシアの間でその領

有権をめぐっての交渉が今でも続いている。

中国と日本の間では釣魚島（日本名は尖閣諸島）の領有権を、また、日本と韓国の間では竹島（韓国名は独島）の領有権をめぐっている。

(三)日本の区画

1. 地方の区画

日本の国土は、北から北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州の八つの地方に分けられる。最近では中国地方と四国地方を一つにまとめて、中国・四国地方とし、七つの地方に分ける場合が多い。これらの地方区分は地形などの自然的特徴と地域の産業や歴史的な変遷を基礎にしたもので、行政上の地方区分ではない。

2. 行政区画

日本は47の都道府県から成っている。行政上では、東京都、北海道、大阪府、京都府、青森県、秋田県……など1都、1道、2府、43県に分けられている。

日本の都道府県は、中国の省や直轄市にあたり、都道府県にはそれぞれ都庁、道庁、府庁、県庁が設けられ、その下に市、町、村などの順では行政機構が設けられている。

47の行政区域の中で、面積がもっとも広いのは北海道で、東京都の37倍もある。一方、面積が最も狭いのは大阪府で、北海道の45分の1しかない。

東京は日本の首都で、約1100万人の人口を抱えて、日本で一番大きい都市である。東京は日本の政治、経済、文化の中心地である。東京都千代田区永田町に首相官邸（首相・総理大臣が仕事をする所）や国会議事堂（衆議院と参議院）などがある。千代田区霞ヶ関には大蔵省、外務省、通産省、文部省などの役所が集中しており、官庁街と呼ばれている。

仕事と人が東京に集まり過ぎるという「東京一極集中」の弊害が指摘され、国会議事堂などの首都機能を東京以外の土地に移転する問題が論議されている。

※都道府県一覧表

北海道（ほっかいどう）		近 畿 地 方	滋賀県（しがけん） 三重県（みえけん） 奈良県（ならけん） 京都府（きょうとふ） 大阪府（おおさかふ） 和歌山県（わかやまけん） 兵庫県（ひょうごけん）
東 北 地 方	青森県（あおもりけん） 秋田県（あきたけん） 岩手県（いわてけん） 山形県（やまがたけん） 宮城県（みやぎけん） 福島県（ふくしまけん）	中 国 地 方	鳥取県（とっとりけん） 岡山県（おかやまけん） 島根県（しまねけん） 広島県（ひろしまけん） 山口県（やまぐちけん）

関東地方	栃木県（とちぎけん） 群馬県（ぐんまけん） 茨城県（いばらぎけん） 埼玉県（さいたまけん） 千葉県（ちばけん） 神奈川県（かながわけん） 東京都（とうきょうと）	四国地方	香川県（かがわけん） 愛媛県（えひめけん） 徳島県（とくしまけん） 高知県（こうちけん）
中部地方	新潟県（にいがたけん） 長野県（ながのけん） 富山県（とやまけん） 石川県（いしかわけん） 福井県（ふくいけん） 山梨県（やまなしけん） 静岡県（しずおかけん） 岐阜県（ぎふけん） 愛知県（あいちけん）	九州地方	福岡県（ふくおかけん） 佐賀県（さがけん） 長崎県（ながさきけん） 大分県（おおいたけん） 熊本県（くまもとけん） 宮崎県（みやざきけん） 鹿児島県（かごしまけん） 沖縄県（おきなわけん）

（四）地形

国土の地形を見ると、61%が「山地」で、高く険しい山や火山が多いのが特徴である。日本は島国であると同時に山国でもある。その外、「低地」(13.8%)、「丘陵」(11.7%)、「台地」(11%)、「内水域など」(2.4%)である。

国土の利用状況は、森林が66.6%で、農用地は13.8%である。その外、宅地、道路、水面・河川などである。また、国土のうち、民有地（約16万km²）の使用状況は、山林（47.9%）、田（17.5%）、畑（15.7%）、宅地（8.9%）、原野などである。

1. 山地と山脈

日本は山が多い国であり、国土の3分の2近くは山地である。山地（山脈、なだらかな山地、丘陵地、高原を含む）は日本国土面積の約75%を占めており、しかも、傾斜が急で海までせまっているため、大きな平野はない。

日本の国土には、3000メートルを超える山が21あるが、すべてが日本列島の中核を成す本州の中央部に集中している。

山地は東北日本では3列に、南西日本では2列に並び、日本列島の中央を背骨のように連なって、国土を太平洋側と日本海側と二分している。東北日本と南西日本の山地が会合する本州の中央部では、東北日本を貫いてきた3列の山地が「ウォッサマグナ」によって断ち切られ、その結果、飛騨、木曽、赤石の3山脈ができ、日本アルプスと呼ばれる高山地帯を形成している。この日本アルプスには3000メートルを超える険しい山々がそびえており、日本の高い山はここに集中している。

南西日本を走っている2列の山脈の間には「中央構造線」と呼ばれる断層があり、これによって、南西日本は内帯（日本海側）と外側（太平洋側）とに分けられている。内帯を

走る山脈は多くがなだらかであるが、外側を走る山脈は高くで険しい。このように、日本には、飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈のように高くで険しい山脈もあれば、北上山地、阿武隈山地、中国山地のように、なだらかな高原状の山地もある。

日本列島は環太平洋地震帯の上にあり、火山活動も活発で、世界でも有数の地震多発帯となっている。日本列島は七つの火山帯によってほとんど覆われている。七つの火山帯とは、千島、那須、鳥海、富士、乗鞍、白山、霧島である。火山の中には、阿蘇山、三原山、浅間山、桜島、雲仙岳など約 60 の活火山がある。

火山活動によってできた湖や温泉もたくさんあり、保養地や観光地として利用されている。

※日本の高い山(高さ 3000 メートル以上)

山の名	所在地	高さ (m)
富士山 (ふじさん)	山梨 静岡	3776
穂高岳 (ほだかだけ)	長野 岐阜	3190
槍が岳 (やりがだけ)	長野 岐阜	3180
悪沢岳 (わるさわだけ)	静岡	3141
赤石岳 (あかいしだけ)	長野 静岡	3120
御嶽山 (おんだけさん)	長野 岐阜	3067
塩見岳 (しおみだけ)	長野 静岡	3047
仙丈ヶ岳 (せんじょうがだけ)	長野 山梨	3033
乗鞍岳 (のりくらだけ)	長野 岐阜	3026
立山 (たてやま)	富士	3015
聖岳 (ひじりだけ)	長野 静岡	3013

2. 川と湖と平野

日本は細長い島国で、国土の中央を背骨のように山脈が走っているので、川の多くは中央の山脈をさかいにして、太平洋と日本海に流れている。そのため、川は短く急流であることが多い。日本一長い信濃川も、その長さは 367km に過ぎず、世界で 3 番目長い中国の陽子江 (6300km) などの有名な川と比べると非常に短い。

このように、日本の川は短く、流れは急で、水量の変化が激しいので、交通にはほとんど利用できない。しかし、水力発電や灌漑、工業用水、上水にはよく利用されている。現在、川の上流にダムを造って、水の流れを調節し、川の水を有効に利用している。

日本の湖沼は山間にあり、火山の爆発によって形成されたものが多い。湖沼は近畿の東に多く、西には少ない。規模は小さく、もっとも大きい琵琶湖は地盤運動によって断層が生れ、それが落ち込んでできたものである。

日本では山地が海岸までせまっているので、平地 (平野、盆地、台地を含む) は狭く、しかも散在している。その面積は国土の約 25% ほどにすぎない。

山地から削られた土砂は河川によって運ばれ、川が海に流れ込むあたりには、たいてい平野ができています。日本の平野が小さく、その大部分はこのような川の働きによって造ら

れたものである。関東平野、石狩平野、新潟平野、濃尾平野などは大きな平野であるが、世界的に見るとごく小さな平野にすぎない。また、平野のほか、山に囲まれた盆地や、平地の中でも一段高くなっている台地がある。盆地は中央高地・東北地方に多く、台地は関東地方・九州地方に見られる。

※日本の大きな河川

河川名	流域面積 (km ²)	長さ (km)
利根川（とねがわ）	16840	298
石狩川（いしかりがわ）	14300	262
信濃川（しなのがわ）	12050	367
北上川（きたかみがわ）	10200	247
木曽川（きそがわ）	9100	193
十勝川（とかがわ）	8400	178
淀川（よどがわ）	8240	75
阿賀野川（あがのがわ）	7340	210
最上川（もがみがわ）	7040	232
天塩川（てしおがわ）	5590	311
阿武隈川（あぶくまがわ）	5400	225
天竜川（てんりゅうがわ）	5090	250

流域面積では、利根川が最も広い河川である。一番長いのは信濃川である。

※日本の主な湖

湖の名	所在地	面積 (km ²)
琵琶湖（びわこ）	滋賀県（しがけん）	670.5
霞ヶ浦（かすみがうら）	茨城県（いばらぎけん）	167.6
サロマ湖	北海道（ほっかいどう）	150.4
猪苗代湖	福島県（ふくしまけん）	103.3
中海（なかうみ）	鳥取県（とっとりけん）/ 島根県（しまねけん）	86.2

最も大きい琵琶湖が 670km² である。最も深い湖は田沢湖で、水深 423 メートルである。

3. 周りの海

日本は海に囲まれているので、海岸線が長く、その全長は 32000km もある。また、日本の海岸線は出入りが多く、複雑には入り組んでいる。特に太平洋沿岸には、東京湾、伊勢湾、大阪湾など、比較的大きな湾があり、半島も多く、多くの良港ができています。周りには、

オホーツク海、日本海、太平洋、東中国海が広がっている。陸地に近い所は海底が平らで、深さが 200 メートルぐらいまでの大陸棚が広く分布している。

太平洋岸では、暖流の黒潮（日本海流）が北上し、寒流の親潮（千島海流）が南下する。この二つの海流は夏は三陸海岸で、冬は銚子沖付近で出会い、それらの海流には多くの種類の魚類が集まる良い漁場となっている。

また、日本海には、暖流の対馬海流と寒流のリマン海流が流れている。

（五）気候

1. 日本の気候の特徴

日本の国土の大半は温帯気候に属している。気候の特徴として四つ挙げられる。

第一の特徴は四季の変化がはっきりしていることである。夏は熱帯なみに暑く、湿度も高く、夜になっても 25 度を下がらない熱帯夜が続くこともある。冬は寒くなるため、夏と冬との間の衣替えがおこなわれる。夏の気温は熱帯地方の気温とあまり変わらず、しかも湿度が高いため、大変蒸し暑く、人々に不快感を与えることが多い。これに対して、冬には厳しい寒さに見舞われる地方が多い。

第二の特徴は海に囲まれていて、国土が南北に長く、地形も複雑なため、さまざまな気候が見られることである。

第三の特徴は国土が南北に長い島国で、緯度の差が 20 度以上もあるため、北と南の気温の差が大きいことである。春は南から訪れる。北海道にはまだ寒さが残っているころ、九州方面から桜が咲き始め、次第に北上していくのである。秋は北のほうから訪れる。西日本が暑さにうだっている 8 月の中ごろ、北海道では萩のような秋の草が咲き始める。

第四の特徴は大陸と海洋の間に吹く季節風の影響が強いことである。

2. さまざまな気候

日本列島は、南北約 3000 キロメートルに及んでいるため、亜熱帯から亜寒帯にわたり、複雑な地形や海流の影響で、気候は地域差が著しいのが特徴である。しかし、大部分の地域は温帯にあり、海洋性の温暖な気候で、春夏秋冬の四季の区別がはっきりしている。

夏は南東から、冬は北西から、規則正しく季節風の影響を受ける。冬は寒気団のシベリア気団が南下し、夏は熱帯気団の小笠原気団が北上する。

さらに、起伏に富んだ山脈が日本列島を縦断しているため、太平洋側と日本海側の気候には大きな差がある。

太平洋側では、夏は南東の季節風が吹いて蒸し暑く、冬は湿気の少ない空っ風が吹き、乾燥した晴天が続く。

日本海側では、夏は雨が少なく、冬はアジア大陸方面からの北西の季節風が吹き、気温が低く、降雪が多く、新潟県などでは、4～5 メートルもの雪が積もる。

3. 梅雨と台風

日本の気候を特徴づけているのが、梅雨と台風である。

梅雨は、五月の中ごろにまず沖縄に始まり、次第に北上するが、北海道を除く地域では七月中旬まで高温、多湿の雨期がある。この時期は梅雨と呼ばれている。梅雨が明けると、